

教えてください、あなたのこと ㉓

大阪府羽曳野市 小寺 悦子さん

(NPO 法人 シティズンホームライフ協会 代表理事)



Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 1936年1月4日生まれで、今年79歳です。大阪府高槻市で生まれて、大部分の時間を大阪府の南河内で過ごしています。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは…？

A 一つは1990年代に、兵庫県のRDF発電に関する審議会に出席して勉強してからで、もう一つは退職後に出会った生ごみ堆肥化のグループの活動を通してです。地域のミニコミ誌「ふれあい」(発行人:笹倉千里)に掲載されたIさんの記事「家庭でEMボカシを使って生ごみを堆肥化」を読み、Iさんと共に地域での生ごみ堆肥化運動を始めました。

当時は家庭生ごみ(EMぼかしあえ)を、羽曳野市内の廃棄物処理事業者の一角にあった有機肥料製造所に集めて、企業系食堂残飯と共に堆肥作りをしてもらっていました。ここで作った堆肥「エコマルチ」は、農業高校退職後に小規模な農業を始めたOさんの「れんげ農場」で有機無農薬農業に利用されています。そして、有機野菜や花、放し飼い鶏(エサの一部に「エコマルチ」も利用)の卵を家庭へ宅配する活動に結びつき、私も週1回(後には2週に1回)、野菜の収穫と配達の手伝いをしました。また「エコマルチ」製造の手伝いとして、多い時期には3市にわたり100軒ほどの家庭の生ごみや社食の残飯の回収も担いました。(現在はこれらの活動は中止しています)

Q ごみ問題に関ること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A 昨年4月から「ボイストレーニング教室」で歌を教わっているくらいで、特に趣味はありません。生き甲斐もこれと言ってありませんが、家猫3匹、地域猫7匹の面倒を見ています。市民農園(12㎡)では野菜がどう育つかを実験(?)しています。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 長く関わっている穂谷自然農園(大阪府枚方市)の竹堆肥製造施設(地域の竹と食品残渣利用)が少し予定より遅れましたが、来年度には稼働するので楽しみにしています。

また今年は、代表理事をつとめるNPO法人シティズンホームライフ協会が助成金を得て、会員(*)の有機農業者やエコフィード(食品残渣を原料に作られた家畜の飼料)畜産事業者が提供する食材を使った「餃子作り」を目指します。うまくいけば、市民団体の活動資金に資することができるので期待しています。

*シティズンホームライフ協会は、有機農業者、エコフィード畜産事業者、EMグループ、障害者団体、農業高校・大学農学部の前教官、廃棄物処理事業者(コンサル業者と堆肥製造業者)など多彩なメンバーで構成されていて、私は理・物理化学出身として活動しています。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A 私がごみかん会員になったのは、確か堆肥化協会のイベントか生ごみリサイクル交流集会に参加してのこと。全国のごみ問題に関心のある人が何かの縁で「ごみっと・SUN」に目を通し、有用な情報を環境活動に利用してくれたらいいな、と思っています。